

### 第3回 東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事概要

- 1 日 時 平成 22 年 11 月 5 日（金） 10：00 ～ 11：38
- 2 場 所 日生防災センター2階 会議室
- 3 出席者及び構成員等 委員 14 名（内アドバイザー1名）  
オブザーバー6名（岡山県3名、兵庫県3名）  
事務局 8 名（備前市 4 名、赤穂市 2 名、上郡町 2 名）  
説明員 9 名（備前市職員）
- 4 議事の概要（開会 10：00）

事務局 定刻になりましたので、ただいまから、第3回東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。本日はお忙しいところ、本懇談会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは開会にあたりまして、座長よりごあいさつをいただきたいと思います。

座 長 みなさん、おはようございます。本日はお忙しい中、東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただきありがとうございます。さて、本圏域の定住自立圏構想は、平成 21 年 3 月に備前市において中心市宣言を行い、その後、3 市町間で連携に関する協議を進めてまいりました。その後、同年 12 月に備前市と赤穂市、また備前市と上郡町間で定住自立圏形成協定を締結、今年 3 月には協定に基づく具体的な取組等を記載した東備西播定住自立圏共生ビジョンをこの東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会の検討を経て策定し、住みよい圏域形成のための具体的な取組を本年 4 月からスタートさせているところです。本日はこの共生ビジョンに記載した取組の進捗状況の報告、平成 23 年度の共生ビジョン見直し案についてご検討いただくこととしています。4 月に発足しまして、みなさん、これまでに事業をやっているところだと思えます。住みよい、住んでよかった、そして住み続けたいと感じられる、また圏域外の住民が訪れてみたい、住んでみたいと思える圏域形成に向けて皆様の忌憚のないご意見、ご提案をいただければと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。続きまして、議事に入ります前に、構成員等本日の出席者の紹介をさせていただきます。（名簿により順次紹介）

- ・懇談会構成員、アドバイザーを紹介
- ・岡山県、兵庫県のオブザーバーを紹介
- ・部会説明員、事務局職員を紹介

以上で構成員等出席者の紹介を終わります。なお、名簿をお手元に配布しておりますので、ご覧ください。それでは、ここからは座長に議事進行をお願いいたします。

す。

座長 それでは、3の「東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」事務局より報告願います。

事務局 それでは説明させていただきます。

「資料1 東備西播定住自立圏共生ビジョン報告(22年度上半期)」

座長 事務局の報告が終わりました。ただいまの報告について、質問やご意見がありましたらお願いします。4月から半年あまりすぎまして、各部会でさまざまな事業をやってきたわけですが、これについてもう少しこうしたほうがいいですとか、いろいろ意見がございましたらお願いします。

委員 最初に計画があって、しかもいろいろな制限の中でやられるのだから、大きなことはできないだろうと片方で理解はできるのですが、ここにあげられているのを進捗状況や計画から考えても、共生ビジョンとしては実に歯がゆいという思いです。こんなことをして、本当に地域に住む住民が想定しているものを得ることができるのか、あるいは近づくことができるのかと非常に疑問を持っています。あるいは疑問を持つというよりも、無理だろうと私には思えるのですが、こんなことをしていいのかどうか、また続けていく価値があるのかどうかを含めてアドバイザーの先生のお話を聞きたいと思います。

アドバイザー おっしゃるとおり、私もインパクトがないというのが率直な意見でありまして、今年の3月に策定したときにもお話したところであります。この定住自立圏構想のそもそもの意義は何かというと、この自治体のエリアの中で快適な生活空間ができて人口流出を防ぐというのが大きな意義だと思います。そのためのいろんなビジョンということでありまして、一番ポイントになるのは豊かな生活ができるかということですから、そのポイントというのは、やはり医療とか教育とか買い物とかが必要でありまして、それらを取り持つ地域交通というのを実行に移さなければいけない。でも、そうした医療にしても、教育にしても、地域交通にしても、まだ検討段階という話ばかりなので、どうしたら動くのかというのが全然見えてこないわけです。やはり医療の問題、教育の問題、地域交通の問題は大事ですから、このあたりをどうするのかというのをもう少し出していきたいというのが率直な感想です。昨年度は仕方がなかったのですね。2月にこの懇談会を立ち上げて、とにかく3月までに作らなければ事務手続きに間に合わないという中でやられたわけですので。それで、このビジョンは毎年見直しができるので、その機会を利用して、そういう柱になる事業を、交通や教育などのところをメリハリをつけてもう少し足していただければなど、お話を聞いて思いました。実際動きだしたというのはよく分かりました。多分私だけではなく、せっかく特別交付税が国から入ってくるわけですから、そういうものを有効に生かしながらやっていただきたい。金額も限られて

おりますので、あれもこれもできない。ですから、どこに集中させるか考えながらやっていただきたいというのが今聞いた感想です。全く委員さんと同じような意見です。

委員　たとえば、医療については期待しているものとは程遠い。この講習会などというのはこの2市1町で別にやる必要はない。講演会など全国的なものがあるわけですから、コミュニケーションエラーなど、ここでこの地域に限って聞くという必要性はぜんぜんないわけですよ。だから、こういうものは、定住自立圏構想の事業から外してもいいのではないかというふうに思います。この中のいろんな事業についてですが、例えば図書館の事業など、定住自立圏という発想がなくても話し合いをすればできるのだろうと思うわけです。それから今までの既存事業を定住自立圏構想事業として取り上げているのだけれども、既存事業は既存事業でやればいい。新しく取り上げたものがビジョンにのって来るべきであるというふうに思う。それから整理して、もっとインパクトのあるものに。予算を使うんだったら、ひとつのものに集約したものに使ったら何かができるかもしれないけど、ちよろちよろ何十万円かを配っても人は住むようになりはしないというふうに思う。その発想をまず変える必要があるのではないかというのが、私のこれを読んでの感想なんです。多分いろんな制限があって難しいのだろうと思うんだけど、私が実際携わってないので分からないのですが、難しいのだろうとは思んですけど、そこでそれを制約を認めてしまえば、多分これ以上新しいものは出ないのではないかと思いますね。発想を大きく変える必要があるんじゃないかと思いました。

座長　貴重なご意見ありがとうございました。確かに人が住みたいと、そのためには何が必要かと言われると医療の問題だとか、交通の問題だとかあると思います。それで、そういう面をこれからどうすればよいかというと、やはり核になるものをきちっとやっていくようにしないと、八方美人ではないですけど、何でもかんでも一応は取り上げていかなければならないのか。そういうものは各市町村でやればと思うんですが。その点を今後見直していけばと思います。

アドバイザー　今、委員さんがおっしゃられましたように、あれもこれもでなくて、しばってやっていただいて、医療や交通とかそういうところが山になると思いますので、そういうことをやっていただきたいのと、もう一つは、多分、赤穂市、上郡町、備前市の住民はこういうことをやっているということあまり分かっていないと思うのですね。やはり、せっかく定住自立圏という新たな施策ができたわけですから、もう少し定住自立圏としてこういうことをやっていますよというアピールすることに力を入れていただきたいと思います。そうすると、市民の参加のために自分達は何をするのかというと、これまで行政の区域が分かれていたのに市民レベルの交流が生まれてくると思いますので、情報発信を工夫していただいて、行政だけでやってい

るのではなくて、そういう住民を巻き込んでというような仕掛けをビジョンの中に盛り込んでいただけたらと思います。

座長 本当にイベントを最近ではどこもB級グルメでいろんなことをやっているとか、また、今回行われた伝統芸能では900人ぐらい集まってやった。そういうふうに、いろんなイベント事業とか、今後は、カキのシーズンになりますから、瀬戸内海のかきまつりということで、邑久の辺から坂越、相生の辺までやるというようなことで、できるだけ多くの人が出て動くと、そういう活性化に役立つことをやっていただければと思います。

委員 結局、企画力があると思うのですが、この懇談会の規約を見たら、策定及び検討するためにこの会を設けるとなっているんですけど、この会が企画をするというのであれば、少なくとも、私（が委員であること）は不適格だと思う。こういうものに入るのは、もっと大きなビジョンを持った、そういう人口の動きに関する優れた考えを持った者が策定すべきであると思います。この会でそういう企画を作るというのは無理なんではないかと思うから、そういう企画力のあるもう一つのエンジンが必要だと思う。それにしがって、住民の意見を述べるのだったら、各種団体としてできるのですが。私たちに、さあ何しましよと言われても、私に人口が増えたり、人口減少が止まったりというようなアイデアを出せと私に言われても出せれない。ここでは無理なんです。他にエンジンがいると私は思う。

座長 今の意見に私も賛成なんですけど、本当にやらなければならないことに対して専門家にアドバイスをいただいて、これをやったらいいというような、各地の成功例を参考にして、こういう取組をやっていきたいと思いますという形になればいいと思うんですけど、その辺で何か意見はありますか。

事務局 ビジョン懇談会については、さまざまな意見を聞かせていただくということなのでビジョン懇談会の中で企画していただくということにはならないと思うんです。定住自立圏の中には、トップに協議会がありまして、それから幹事会があります。そういったところで企画していくということになりますので、その企画について皆さんにお示しして、いろいろ意見をいただくというふうなことになるかと思いますが、もちろんいい意見がございましたら、ビジョンの中に取り入れていきたいというふうに思っております。

座長 分かりました。いろいろ企画は、備前市、赤穂市、上郡町が考えていくわけなんですけど、自分たちでいいアイデアが出なければ、専門的な人の話も聞いて、何とかこういうことで見直しをしてきましようというふうにしていただければと思います。

委員 私は文化財保護審議会委員として、山を歩いて、かけらを調べて、いつの時代だろうか、また瓦を見たり、マイナーな趣味というか、そういうことをやっています。それで今回も「埋蔵文化財巡回展」のパンフレットを見たら興味をそそられるのですが、ただ大多数の人はそこまでという人が多いと思います。最近、私も定年して、いろんなところへ勉強へ行くと、70歳、80歳になられる方がいろんなことを楽しもうと集まって勉強されています。そういうようなことで、定住自立圏構想の人口問題とは別に少しずつやっていただければと思う。また、スポーツ少年団で、備前市ではなく、近隣の市町村で剣道を教えているのですが、吉永町でも剣道大会があります。また、備前市でもあります。今年は特に備前、和気で限定されていたものを

赤穂、上郡からも剣士が来るということで、そのときに私は相談に行ったのですが、こういう場で補助ができないのでしょうか。でも既存の大会ではダメだと言われたのです。そしたら、練習試合でもやろうかといってもなかなか体育施設をお借りするというのは日程上難しくなかなか進まないのです。あまり定住に対して役立つとは言えませんが、子供さんから年配の方が楽しめるので、少しぐらいの企画はいいのではなかろうかと思います。

座長 少子化の傾向が進んでいる中で、子供たちがスポーツを通じて元気を出して、少しでも増えていくのはいいことだと思います。観光関係の人も、文化財関係の人もいろんな人がいますので、その辺は並行してやっていただければと思います。私事になりますが、私も中学3年で軟式野球しかやっていない子供が高校に入って野球をやるのにリトルリーグで硬式をやった人と差ができるのを埋めるということで、野球教室を3年ぐらい前に立ち上げてやっています。今、備前市が中心になってやっているのですが、和気郡だとか赤磐市だとか、坂越から1人来ている子もいます。いろんな形でそういうことをやっていくことも大切だと思います。今度、中学校でスポーツ大会があるというようなこともやっていますので。人が動くということは活性化につながると思うんですが、そういうことも今後やっていただけたらと思います。

委員 企業誘致につきましてお尋ねさせていただきます。5月31日とか8月3日、9月9日で国際フロンティア産業メッセだとかというところに出展されたり、神戸の国際展示場のほうで説明会をされたりというご報告をいただいております。また、これに対しまして、来場者数ですとか、パンフレットの配布枚数がこちらに記入されております。これに対する問合せがいかがなものかということ、備前市の場合、ある企業の部門が高槻のほうに移ったというようなことで、それに従事しております従業員の方やご家族の方が備前市を離れていくようなことがたくさんあります。それで、人口を増やすということになれば、人口の流出を防ぐ、それから流入を図るということになってくると思います。実際にこの定住自立圏構想を始められて、今日まであまり日にちが経っていないと思うのですが、人口の増減のほうでどういう効果があったかというのをお聞かせいただけたらと思います。

説明員 具体的に電話があったというようなことは聞いておりません。このイベントは要するに、企業誘致のほかに観光PR、それからアンケートをとらせていただいております。そういう中で、具体的に言いますと、例えば、備前市とか上郡町、赤穂市に興味がありますかとか、それから他に企業誘致にあたって、どういうところを望まれているかというアンケートをとっております。それで関西圏の方々の動向を把握しているということでございます。ですから、そういった具体的な問合せというのは今のところございません。

委員 赤穂市さん、上郡町さんはどうですか。

事務局 赤穂市につきましても企業誘致担当からは引き合いはないと聞いております。それはこういう企業誘致のPRを行っても、やはり経済状況に左右されますので、現在はなかなか立地には難しい状況です。立地の計画があったとしても企業さんは最後までなかなか真意を明かしてくれないという面があると聞いております。企業が赤穂に進出するということは、場合によっては今あるところから撤退、移転ということもありますので、そうなる移転されるほうは、そういう情報を聞くと必死になって止めるという動きもあって、企業が新たに建てるという場合は問題ないと思いますけど、移転ということになりますと、自治体間で相当な駆け引きがあります

ので、そういう情報は最後の最後までなかなか明かさず、水面下で交渉を続けておるといことです。今回やりはじめて半年で2回、2箇所説明をただけですけども、そういう情報については先ほど備前市さんが言われましたようにそこに来られた情報を生かしながら今後は水面下で交渉していくことが必要となってくると聞いています。

座長 企業誘致は、経済状況がこういう状況ですから、よほどの優遇措置ができるような形でないとなかなか来られないと思います。それが住む人を増やすためには、住宅環境がいいとか、公共交通がいいとか、医療のほうで優れているとか、それと文化財がいっぱいあって、本当に住んでみたいということになればいいのですが、なかなかこれは全国的に難しい問題だと思うのですが、何かでやっていかないといけないのかなと思っています。

アドバイザー 今、おっしゃられたように、企業もグローバル化で、これまででしたら国内だったのが、選択肢が中国や東南アジアに増えてますので、なかなか国内に向かわない。もうひとつは、景気自体が悪化しているので、投資そのものがないということのを伺っています。ですから、なかなか企業誘致は時間がかかると思う。最終的には産業が振興しないと雇用は生まれませんので、最終的にはそういうのもあると思うのですが、企業誘致はちょっと長期の話として私は考えるべきだと思います。あくまでまずやれることというのは、生活基盤をどうやって作っていくかということがこの共生ビジョンの優先順位だと思う。ですから、医療とか交通、そういうところをまず地元でできる話ですから、そういうところにまずは力を入れていただくと。しかし、企業誘致は同時並行でやるのですが、これはすぐに決まる話ではありませんし、景気の問題とか、いろんなわれわれで決められない要因がたくさんありますから、それは少し長い話としてやるのが戦略としていいのかなと思います。

座長 ありがとうございます。それではそういうことでよろしいでしょうか。それでは、3の「東備西播定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について」の説明が終わりましたので、次に4の協議事項「東備西播定住自立圏共生ビジョンの23年度見直し(案)について」事務局より説明願います。

事務局 それでは説明させていただきます。

「資料2 東備西播定住自立圏共生ビジョンの平成23年度見直し(案)について」

- ・「職員研修事業」へ文言追加
- ・協議会事務局に係る経費をビジョンに追加
- ・平成23年度以降の各事業の事業費は、今後積算した後修正

座長 今、事務局からの説明が終わりましたが、これに対してご意見等がありましたらよろしくお願います。

委員 この案件そのものに異論はないのですが、先ほど議論に出た、もう少しインパクトのあるものにまとめようという話は今年度はもうできない。来年度するということになるわけですか。それともそれとは全然別の話と考えたらいいのですか。

事務局 先ほども申し上げましたが、共生ビジョンというのは毎年見直しをするということになっておりますので、また委員さんの中でインパクトのあるものがありましたら、お教えいただければ、それぞれ関係する部会、あるいは幹事会にあげて、協議してまいりたいと思います。

委員 ということは、ここから意見が出なければ、変わらない。

事務局 もちろん、それぞれの部会がありますので、さまざまな人口減対策を今も実際

にいろんなアイデアを考えております。この中にはまだ保健福祉の関係や環境の関係は入っていないのですが、今環境部会のほうで太陽光エネルギーを活用したような事業も考えております。まだ、成案になるまでには至っていませんが、ある程度大きな事業になるかと思えます。そういった事業も考えておりますので、できるようでしたら、懇談会のほうで諮っていきたいと考えておりますのでよろしくをお願いします。

委員 先ほどの話では、見直して、もっとインパクトのあるものにまとめようという話が出たように思うのですが、その方向で行こうというのは確かなんですか。それとも、それは各部会に任したという状態になっているんですか。それともまだ各部会には流していない状態なんですか。

事務局 おっしゃられることはよく分かります。結びつきという観点では、さまざまな細かい事業も必要だと思いますので、それプラス大きなインパクトのある事業があれば部会、幹事会で研究してまいりたいというふうには思っております。

座長 一応、今日の意見を聞いて、もう少しインパクトのあるような企画を今言われたような企画を上郡町、赤穂市、備前市でそういうことを考えていくということ聞いております。近いうちに何かいい案が出てくるのではないかなと思っておりますが、それでよろしいか。

事務局 はい。今現在もいろんな部会で検討が進んでおります。ただ、今日この段階でお示してきたのがこれだけだったということでございます。それから、もう少し整理したほうがいいのではないかというビジョン懇談会からの意見については、持ち帰りまして、部会なり、幹事会のほうへ意見として伝えていきたいと考えております。そのうえで、また新たなものができれば、随時まとまった段階でこの会議をお願いしていかなければならないと考えております。

座長 今の予算のほうは、事務局の費用が年間 300 万円必要であるとの話です。そういうことで特に問題ありませんか。

アドバイザー この見直し案について特に異論はありませんが、職員の話についてちょっとお話しておきたいと思えます。この職員の交流というのは、圏域マネジメント力の強化という柱の中での事業ですが、例えば職員の研修をこういうことをやりましたというのはあるのですが、大事なのはどういう職員を作るのかという職員像がはっきりしていません。やはり 3 つの自治体が協力しあってエリアのマネジメントしていくための職員ということで、ではどういう職員を作るのかという職員像がなければと思えます。そういうものがなければ、いくら研修しても意味がない。やったで終わってしまうわけです。ですから、もう少しどういう職員を育てるかという理念を。人材育成は非常に大事ですので、マネジメント力のところではもう少し考えていただきたいと思えます。二つ目はビジョン懇談会の位置づけですが、先ほど事務局のほうからは意見を聞くということをおられたのですが、しかし、今回のたたき台であるビジョンそのものをわれわれが承認して、最終的な決定ではないにしても意思決定に関与する重要な会議であると思えますので、その位置づけをもう少しきちんとするということもしていただきたいと思えます。単に意見を聞くというだけではないような気がします。実際に当事者と言いますか、交通の関係者も医療の関係者もメンバーに入っているわけですから、そういう意味では意見を聞くだけではなくて、もっと上のレベルと考えていただけたらと思えます。

座長 その点について、事務局はいかがですか。

事務局 ご指摘のとおり、ビジョン懇談会でご承認いただけないと先に進めない非常に重要な会議、意思決定の力を持っている会議でございます。その中で、それぞれの専門家の皆さんがどう考えていくかという意見もお聞きしながら。別に設けております協議会というのは、われわれとか議員さんとか、どうしても身内の会議のようになってしまいます。そういった意味で皆さん方の意見を生かしながら、次の段階に進まなければならないというふうに考えております。

座長 それでは、次に5番目のその他に移らせていただきます。

事務局 先ほども申し上げましたけども、この共生ビジョン懇談会は、協定事項等の追加や見直しがあれば、懇談会を開催する必要がありますので、その際にはまたご参集いただけたらと思いますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

座長 確かにこれだけの人が一同に会して会議を開くというのは本当に重要なものではないかと思っておりますので、いろんな事業案が上がってきたことに対して、皆さんのそれぞれの立場から意見を言っていただければいいのではないかと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

事務局 確認ですが、予算の関係等の修正です。今ビジョンに記載している平成23年度以降の事業費についてですが、こちらの数値の変更があったら書面で報告させていただくということでご承認いただければと思います。

座長 よろしいですか。

(「よろしい」の声)

はい。ではそういうことでよろしくお願ひします。

委員 今さら言うことではないかもしれませんが、一つだけ予算の面で言わせていただきたい。総事業費で3億、4億近いのですが、その中で赤穂市さんが作られる文化会館の整備事業に、ここで2億2千いくら、地域活性化事業債ということで半分くらい使われている。しかし、文化・スポーツ交流のところでは0円ということになっている。そのあたり、スポーツ少年団の皆さんは手弁当で子供を教えておられる。交流してもそういう食事、弁当代も出ない。そのとき、300円、400円くらいのお弁当を指導者の方に出してあげたらよかったのではないかと思っていたのですが、そういうことで表を見たら、もう少し文化・スポーツ部門にも配慮していただけないかなという気がしております。

事務局 こちらの赤穂の文化会館の事業ですが、第2回目の会議のときにもご説明させていただいたかと思うのですが、赤穂市において実施する事業でありまして、地域活性化事業債というのは、このビジョンに記載してあると有利な起債が借りれるというものであります。赤穂市文化会館の位置づけとしては圏域の市町民が利用するというような位置づけでビジョンに記載しております。また、先ほど出た剣道大会の件ですが、民間イベントの支援事業がございますので、こちらのほうで。既存の事業はダメだという形にはいるのですが、中身を工夫していただいて、そちらのほうで申請等をしていただければと思います。

座長 今スポーツの話がありましたが、ほとんどボランティアでやっているところが多くて、行政のほうからお金がつかないということになっているのですが、せめて弁当とか、ちょっとした交通費とか出せれるようになればいいかなと思っております。

その他何かございますか。なければ本日の会議は終了いたします。なお、次回の会議でも皆様のご出席をいただきますようお願いいたします。

了

(11時38分)